

## 公開シンポジウム

### 〈ギャラクシー賞受賞「報道活動」を見て、制作者と語る会〉Vol.7

- 日時 2014年11月30日(日)午後1時開始、5時終了予定
- 場所 NHK放送博物館・愛宕山ホール 東京都港区愛宕2-1-1(電話 03-5400-6900)
- 主催 NPO 法人 放送批評懇談会 ギャラクシー賞報道活動部門委員会  
NHK放送博物館
- 入場無料(定員 100人) 事前の申し込みは必要ありません

今年で第51回を数えたギャラクシー賞にはテレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門があります。このうち報道活動部門は個々の番組枠を超えたキャンペーンや息の長い調査報道、地域に密着した長期シリーズ、スクープ的な報道などを対象にして、2002年に新設されました。これまでにテレビ朝日の「ザ・スクープスペシャル 告発! 警察の裏金疑惑」シリーズ、札幌テレビ放送の「がん患者、お金との闘い」シリーズなどが大賞に輝き、ラジオ局やケーブルテレビ、コミュニティFMなども受賞しています。

しかし、これらの優れた報道活動は放送エリア外ではなかなか視聴することができません。そこで、ギャラクシー賞報道活動部門委員会では2008年から毎秋、東京で〈ギャラクシー賞受賞「報道活動」を見て、制作者と語る会〉を開催してきました。受賞作のダイジェスト版を上映するとともに、その報道活動に携わった制作者をゲストとして招き、報道活動部門の選奨委員らとトークを繰り広げます。

今回は「地域の人々と現実に向き合うか」というテーマを設定し、第51回ギャラクシー賞報道活動部門の受賞作3作を取り上げます。大賞を受けたNHK広島放送局の「『里山資本主義』の提言と報道活動」は、無価値と思われてきた里山の資源を生かす新たな経済活動に光を当て、「本当の豊かさとは何か」を考えさせる提言報道です。出版化やインターネットによる動画配信によって、「中国山地から始まった静かな革命」は全国に発信されました。

札幌テレビの「タンチョウ衝突死～保護活動への警鐘～」(選奨受賞)は、特別天然記念物のタンチョウが釧路湿原一帯で増え、列車とぶつかって死ぬ事故が相次いでいるため、その背景や保護活動のあり方を掘り下げました。テレビ朝日映像の「アーサー・ビナード 日本人を探して」(選奨受賞)は、BS朝日の報道番組「いま日本は」の企画コーナーで、日本語が達者なアメリカの詩人が全国各地を訪れ、伝統と風土に根ざす人々と対話を重ねます。写真で構成し、言葉の重みを際立たせる手法が新鮮です。

制作者、研究者、視聴者を問わず、多くの皆さんの参加を望んでいます。

#### ◇ゲスト

NHK 報道局 チーフ・プロデューサー (前 NHK 広島放送局) 井上恭介

札幌テレビ放送 報道部ニュース編集長 眞鍋浩史

「アーサー・ビナード 日本人を探して」ディレクター 松井亜芸子

◇司会 ギャラクシー賞報道活動部門委員長 鈴木嘉一

このほかに、報道活動部門選奨委員がパネリストとして参加します。

#### <問い合わせ>

■放送批評懇談会 03-5379-5521(平日 10時～13時/14時～18時)

#### <会場へのアクセス>

- 最寄り駅 地下鉄日比谷線 神谷町  
(3番出口、徒歩8分)

